

丸小野村 幸衛門、福治良、角太、和五良世話主 熊吉○柏村 松治

(右面に) 備前屋半助 □屋利兵衛 萩原登八良

同 三伐治 府内真兵衛 玉目邑 政太良

同 浅吉、椎屋 伝治郎 高瀬屋 十万吉 ニセモト □□

石工 藤吉 とある。

石像は(台石三段で、○・九四米、像の高一・五八 巾○・五七米)等身大の大きさである。

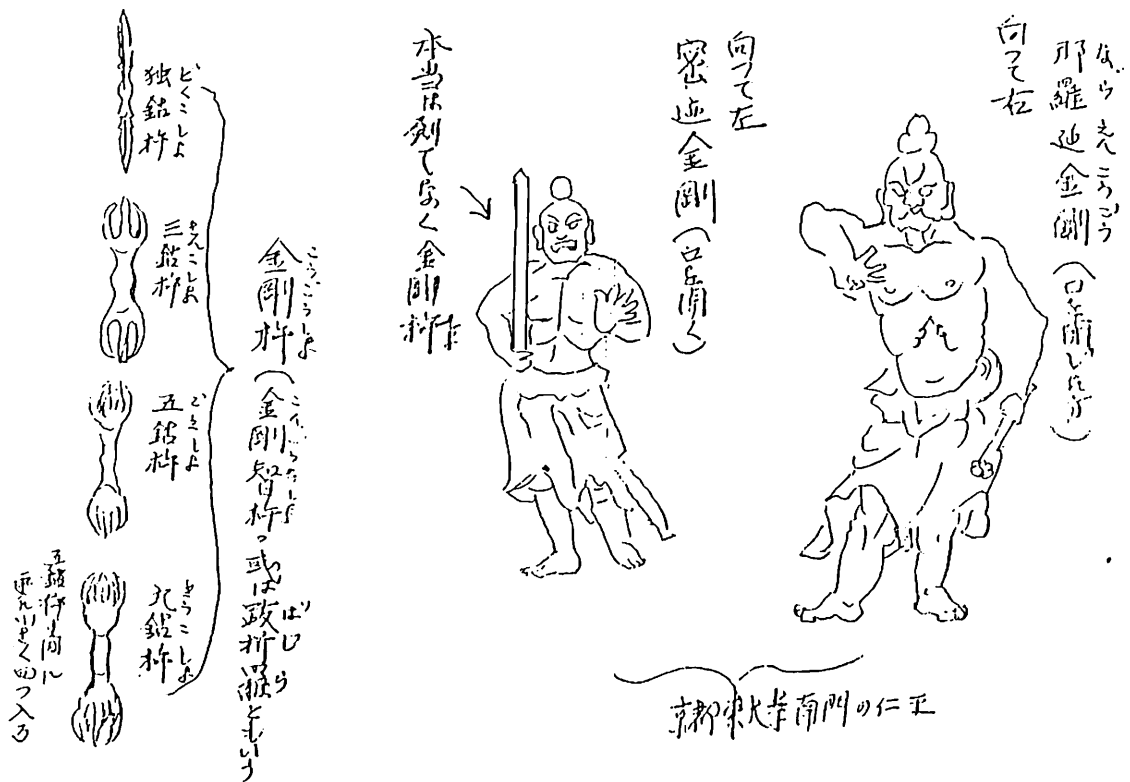
(参考)

向って左の口を阿(梵字卍)形を、密迹金剛、右の口を閉じた卍(梵字卍)形を、那羅延金剛とよばれるが、本来は一体の像の分身だと云われる。

①金剛杵(梵字卍)形を、密迹金剛、右の口を閉じて、向って左の口を阿(梵字卍)形を、密迹金剛、右の口を閉じた卍(梵字卍)形を、那羅延金剛とよばれるが、本来は一体の像の分身だと云われる。

②「撰無礙經」では「忿怒降魔」の相で、左手を拳にして腰に押し、右手に金剛杵を持って、金剛宝(金剛宝は、ダイヤモンドのこと)の瓔珞(ヨウラク)をつけ、獣皮の服を天衣とする」と説かれていて、(日本石仏事典)

明は別図の通り)



### ③金剛力士

金剛力士と、密迹力士を合せて、仁王(二王)と呼ぶ、寺門にあつて、外敵を打ち払う役目で、口を開いた阿形、閉じている吽形があつて、とても動的な像である。東大寺、南大門にある巨像は、運慶、快慶の鎌倉時代の共同作とされ、我が国では、最大、最高の仁王像である。(仏像の見方、彫り方、参照)



#### 一八二 所在地 大字高畑

部落公民館前の大師堂の中に、石仏が三体あり、中央は、八十八ヶ所札書の一番仏像の釈迦如来像があり、台石(巾〇・三二 高〇・一六米)の上に仏像(高〇・四五 巾〇・二米)がある。両側に高野山と台石(巾〇・三七 高〇・〇九)に記された仏像(高〇・五 巾〇・二五)が合祀されてある。



#### 一八一 所在地 大字柏(溜淵)

山下茂氏宅より約五十米程、登ったところに石段三十段程の自然石の台地に、大師堂がある。祠のところに石碑があるが奉寄進 氏子中とあるのみで創建等不明である。自然石のくり抜きの岩窟で右から四十五番不動明王像、四十三番千手観音像、四十二番大日如来像が祀つてある。

#### 一八三 所在地 大字高畑

石仏は台石(縦〇・二〇 横〇・三五米) 仏像は(高〇・五三 巾〇・二六米)の大きさである。  
年称神社境内に十体の石仏が合祀されてある。この石仏は、(別記) 井竿五三右衛門の墓石の碑文にあるように、四国八十

八ヶ所の諸仏を柏在(一部菅尾地区含)に奉祀されてあるが、

この地に二番より十番及五十三番の十体が在る。(二番弥陀如来

三番釈迦如来 四番大日如来

五番地藏菩薩 六番薬師如来

七番弥陀如来 八番千手観音

九番釈迦如来 十番千手観音

五十三番弥陀如来)

台石(巾〇・三三 高〇・一

一)の上に石仏(高〇・五二 巾

〇・二三米)の同型であって一



番は前の大師堂の中に在り、他の地区に祀ってある何番と明記されてある石仏は、ここを基準として八十八ヶ所に祀られてあるが、現在奉祀地区の約三分の二程度しか判明していない。

一八四 所在地 大字大見口(岩下)

部落民家より川に沿って約五十米程上った岩の下に石仏五体が合祀されてある。

右側より金比羅大権現 奉寄進 貞之十内サカと自然石に

(巾〇・二四 高〇・三六米)刻みあり 次に馬頭観世音(巾

〇・二八 高〇・六四米切石)次に大日如来(巾〇・一五 高

〇・六五米)次に四国八十八ヶ

所中六十四番札所 阿弥陀如来

と台石(巾〇・三二 高〇・一

五)にあり仏像(巾〇・二三 高

〇・五三米)がある。最左は、

台石(巾〇・三 厚〇・五米)

の上に(巾〇・一五 高〇・四

四 厚〇・一五米)の仏像があ

るが、無名にて不明である。

部落の人は、ここをお大師さ

んと呼んでいる。



一八五 所在地 大字馬見原(岩尾野)

大日堂の中に、高さ〇・三二米、巾〇・二米の石仏一体がある。別に銘がないので不明

一八六 所在地 大字馬見原(山下)

甲斐実氏宅裏山に、高さ(〇・六 巾〇・二二米)赤青色で着色された、いかめしい姿の身代不動明王像の石像が建立されてある。



一八七 所在地 大字滝上

草部商店横に(高〇・五 横〇・三五米) 三面馬頭観音像が建立されてある。以前は一〇〇米余り東側旧道沿に安置されていたが、国道改良により信仰心厚き方々が交通安全を祈って現在地に奉祀し毎年十月第四日曜日に祭礼が行われている。

伝承によれば、天正の頃(一五七三〜一五九〇) 清正公施政となり、以来清正道と称され此の街道を通行する駄賃馬や旅人の安全を祈願して部落の人が寄進されたものと伝あり。

一八八 所在地 大字馬見原(一里木)

町道左側の大師堂の中に、石仏一体がある。

明治二十年(一八八七) 三月二十一日

千手坎中連・松本政治と銘あり

一八九 所在地 大字滝上(竿渡)

部落前畑に、石仏一体(高〇・四三 台石〇・二七米)が建ててある。

南無阿弥陀仏・吉田圓次 文政八<sup>四</sup>年(一八二五) 四月吉日と銘がある。

一九〇 所在地 大字滝上(竿渡)

部落前畑の中央部に大きい柿の木があつたが、今は切株のみでその根元に、石仏一体と石碑が祀つてある。

石仏は(高〇・九五 巾〇・二二米) 竿渡村 直吉とあり

石碑は、亨和元年(一八〇二)<sup>辛酉</sup> 歳七月十四日

中央に、奉納<sup>四国</sup> 八十八<sup>八</sup> 左側に、二十四才 みえ 右側に、肥後

国 庄助 の銘あり

一九一 所在地 大字柳井原

部落上、右丘の上に大日如来像(高〇・二九 巾〇・一一米)と外一体(高〇・三一 巾〇・一三米)の二体がブロック室の中に合祀されてある。

大日如来像は、牛又馬に乗っているようであるが、頭部がこわれているので良くわからない。外一体は女性像の様であるが、仏体は明らかでない。記録として次のように銘記されてある。

馬頭観音堂改簿 (昭和十七年三月二十三日)

工事費 三〇円 材料寄進 井上孫市 大工坂本鶴吉 建主  
堀裕 寄付者の方十数名記名あり

五円 井上孫市 五円 斗高春治 四円 井上政次 二円五十

銭 春日直 二円 森下長次郎 二円 田中政一 一円五十銭

坂本鶴子 外数名あり

一九二 所在地 大字柳井原

部落入口左側茶畑に二体ならべて祭祀してある。

左側 (高一・〇五 巾〇・三九米) 台座に安政五年 (一八五八)

己二月七日 柳原寅八 とあり 右側 (高〇・九六 巾〇・三

六 〇・二五二台) の仏像は、ヨーキ、ハツリ、ツチ、刀を手

にした姿である。

建立寄進者 寅八とあり 昔災害で牛馬をなくしたことにより

この仏像を祭祀されたと云われている。

一九三 所在地 大字長崎 (下長崎)

大師堂の中に石仏六体がある。

右側三番明治十五年八月と刻みあり (台石巾〇・三一 高〇・

一〇米 石仏巾〇・二三 高〇・三三米)

中央右、奉念四国八十八ヶ所とあり (台石巾〇・三 高〇・一

六 石仏巾〇・二二 高〇・三八米)

中央左第一番奉申請とある (台石巾〇・二六 高〇・一五 石  
仏巾〇・三二 高〇・四四米)

明治二十二年九月

右側の右 (台石なし石仏巾〇・二三 高〇・五米) 大日如来像  
と思われる。

右側の中 (台石なし石仏巾〇・二八 高〇・四五米) 馬頭観音  
像と思われる。

右側の左 (台石なし石仏巾〇・二四 高〇・四〇米) 他に木仏  
六体あり

一九四 所在地 大字長崎 (下長崎)

旧道の上下右側にある薬師堂の中に石仏二体あり

右側 (台石巾〇・一九 厚〇・〇五 石仏巾〇・二 高〇・二

二米)

左側に (台石巾〇・二七 厚〇・一六 石仏巾〇・二 高〇・

五米)

他に木仏二体あり

一九五 所在地 大字滝上 (竿渡)

奈須時江氏前の畑の周囲に、点在して、同じ型 (高〇・八 巾

○・三米)の石仏が五体ある。文政八〜十年(一八二五〜一八二七)の建立

一九六 所在地 大字長崎(甲長崎)

大師堂の中に(高○・四米 ○・三二米)石仏二体あり

一九七 所在地 大字長崎(栗山)

大師堂の中に(高き○・三三米)三面馬頭観音像外二体の石仏が祀つてある。

一九八 所在地 大字長崎(甲長崎)

藤川商店横の大師堂の中に、大正八年建立の石仏二体がある。(高○・四米一体と、高○・五五米)

一九九 所在地 大字長崎(加勢群)

旧国道右側(山本鷹雄氏前)の地藏堂に石仏二体あり

大正六年(一九一七)二月二十一日の建立で、石台中央に四国八十八ヶ所とある。(高○・五一米と○・二八米)



二〇〇 所在地 大字馬見原(鏡山)

旧国道牧の口左側の観音堂に、石仏四体あり

右は馬頭観音像で大正十年十一月としるしあるが、外はお大師像と大日如来像、一体不明が祀れてある。(右より高○・四四○・三二 ○・三四 ○・四〇米)

二〇一 所在地 大字塩出迫(上塩出)

観音堂横に石仏二体あり(高○・五二 巾○・二五米) 建立年月外不明

二〇二 所在地 大字塩出迫(下塩出)

中村喜敏氏裏泉水の土手に一体建立しあるも詳しくは不明

二〇三 所在地 大字米迫(米山)

部落公民館に地藏堂が併設されてある。以前は各個所に祭祀されていたものを合祀されたと云う。

石像は、大日如来(高○・三三 巾○・二二米)一体と八幡大菩薩と刻んだ自然石(高○・七七 巾○・四四米)が合祀されてある。

二〇四 所在地 大字菅尾(大久保)

甲斐光明氏裏山に一体祀しあり(高〇・五三 巾〇・二三米) 台石に六十五番 十一面観世音と刻みある。

二〇五 所在地 大字塩原(斗塩)

観音堂の縁に石仏一体あり(台石巾〇・二三 厚〇・三米) 仏像(巾〇・二二 高〇・五二米)

寛政四年(一七九二)先祖菩薩と刻みある。

二〇六 所在地 大字花上(中神働)

分校々舎東側に

(縦〇・五四 横

〇・二米)石仏一

体あり 建立年月

等詳しくは不明で

あるが、日頃生徒

が花等をあげて



「石の地藏さん」として礼拝して大事にしている。その横に、長さ〇・四米の宝塔の一部があるが、詳しくは不明

二〇七 所在地 大字塩出迫(上塩出)

観音堂横に、自然石に馬頭観世音菩薩(巾〇・二二 高〇・三米)大日如来(巾〇・二二 高〇・二七米)と刻まれて合祀されてある。

二〇八 所在地 大字花上(中神働)

地藏堂の中に石仏三体が合祀されてある。四国八十八ヶ所三十五番薬師如来、三十六番不動明王、三十七番弥陀如来、石像は同型で台石(巾〇・三二 厚〇・一七米)石像(巾〇・二七 高〇・五三米)横に宝篋印塔の頭部と思われる一部が合祀されてある。

二〇九 所在地 大字花上(花寺)

菅原神社内に石仏三体が合祀されてある。

四国八十八ヶ所三十八番千手観音(台石巾〇・三二 厚〇・一五米)石像(巾〇・二五 高〇・四五米)三十九番薬師如来(台石巾〇・三二 厚〇・一六米)石像(巾〇・二三 高〇・五一米)別に弘法大師(高〇・二六米)が合祀されてある。

二一〇 所在地 大字柏(溜淵)

山下茂氏宅の横に、自然石をくり抜いた岩穴に、仏像一体(横

〇・二〇 高〇・三五米)が祀られてある。昔から「乳の神」

「乳授けの観音さん」として、

信仰されてきたと云われている。

由緒等詳しいことは不明



二二一 所在地 大字柏(溜淵)

以前は、不動

堂の横に奉祀さ

れてあったが、

本堂の改築にあ

たり現段上に遷

しまつられた。

又町道玉目線よ



りも参拝道を取り付けられ、一般参拝者も漸次多くなつてきて  
いと云う。(高〇・九六 厚〇・二七米) 左右に太陽と月の刻

みがあり

二二二 所在地 大字橘

公民館建物の中に石仏十体が合祀されてある。

昔は橘本村外数ヶ所に散在して祀られていたが、公民館竣工の時此の館内に集め祀られ村人が一緒に参拝出来るようにしたと云われる。十体共に無名にて詳でないが、諸仏の像が合祀されてある。

二二三 所在地 大字橘(椎屋)

お堂内に石仏六体がある。右側より阿弥陀如来(高〇・五二

米)次が、八十八ヶ所の内二十九番手観音(高〇・五二米)、

次は弘法大師で(高〇・二七米)台石に世話人山辺安次良、同

武右衛門、椎屋村中とあり 天保七<sub>中</sub>(一八三六)十月二十一

日と刻みあり

次に虚空菩薩の石仏で(高〇・六三米)同天保七年で世話人共

同じ。

次に二十八番大日如来で(高〇・五三米)左側は(高〇・三四

米)で明治二十八年 世話人山辺九一郎 外十一名 四国二十

九番 旧正十八日と刻みあり



二一四 所在地 大字橋(栴山)

部落の中心地に阿蘇神社があり樹齡約六百年を経たと思われる銀杏の古木の下に木造瓦葺の祠があり、その中に石仏四体が合祀されてある。

三十一番 (高〇・五六米) 文珠・三十二番 (高〇・五六米) 十一面観世音 三十三番 (高〇・五六米) 薬師如来・二十四番 (高〇・四一米) 不祥 明治十六年 江藤熊三郎・勝熊と銘がある。

二一五 所在地 大字下山

薬師堂(正運山当福寺)に石仏二基あり どちらも同形の(台石巾〇・三四 高〇・一五 仏像巾〇・二五高〇・五 厚〇・一米)もので八十八ヶ所の一部と思われ、二十番地藏菩薩と、二十一番靈空蔵菩薩が祀れてある。

二一六 所在地 大字東竹原(野原)

竹原線入口三叉路左側に石仏二基あり

右は、十三番十一面観世音(台石巾〇・三四 高〇・一四に 高〇・五五 巾〇・二三米)

左は、十四番弥勒菩薩(台石巾〇・三三 高〇・一に 高〇・五三 巾〇・三米)

八十八ヶ所内のものと思われる。

二一七 所在地 大字東竹原(竹原)

大師堂の中右側に一体あり 台石六角(高〇・一三米)の上に高(〇・四三 巾〇・一八米)の像あり 年月等不明なり 右側に一体あるが(巾〇・三 高〇・三七米) 無名なり

二一八 所在地 大字東竹原(日向泊)

町道(竹原↪日向泊線)右側道上杉山の中に、お地藏さんと呼ばれているところに仏像二体が合祀されている。

右側台石(巾〇・三二 高〇・一四)石像(高〇・四五 巾〇・二五米)正面に市木、梅花山 蔵福寺とあり

横面に弘化二年(一八四五)巳十月吉日、日向泊、西竹原連中 石工 阿蘇坂梨栄七と銘あり

左側に(巾〇・一四 高〇・二七米)千手観音像が祀られてある。  
 建立年月等不明



二一九 所在地 大字柳（猿丸）

観音堂の中に石仏一体あり、十一番薬師如来とある。

台石（巾〇・二三三 高〇・一六米）の上に、石像（高〇・五巾〇・二二米）仏像が祀つてある。横に木造の仏像が数体合祀されてある。

二二〇 所在地 大字柳

町道より右約百米上り佐藤睦美氏宅入口左右石段を約三十米登ったところに観音堂あり 堂の中に石仏二体あり。

右側は、台石（巾〇・三五 高〇・一四米）の上に（高〇・五二巾〇・二八 厚〇・二五米）

十五番薬師如来像、左側は概ね同型のもので、十六番千手観音が合祀されてある。

二二一 所在地 大字伊勢（梶原）

観音堂の中に、石仏一体（外木造）が合祀されてある。

台石（巾〇・二一 厚〇・一米）の上に、高〇・五四 巾〇・二五米の石像で、十二番靈空蔵□と銘がある。

二二二 所在地 大字伊勢（梶原）

梶原川左岸に、水神さんと呼ばれるところに石仏が祀つてあ

る。（巾〇・二二 高〇・五米）天保十一年（一八四〇）六月吉

日とあり ここには湧水ありて、水道施設が完備される約三十年前迄はこれより飲料水を求めていたと云う。今でも三月二十一日には、水神祭りが行われている。

二二三 所在地 大字伊勢（旅草）

佐藤常義氏宅下に、湧水池あり 水神宮として石仏が祀られてある。台石（巾〇・四二 厚〇・二二米）の上に高〇・四五巾〇・二二米の像で、天保十亥（一八三九）七月吉日と銘あり、以前は飲料水場として使用されていたが、今は水田の用水として利用されている。

二二四 所在地 大字長谷（目細）

薬師堂の中に石

仏一体祀しあり

台石（高〇・三五 巾〇・二七米）の上に仏像（高〇・四五 巾〇・一六

米）あり 薬師如

来像 台石に干時亨保六<sup>辛</sup> 丑（一七二二）天八月建立



南郷菅尾村之産山村姓

益城郡中嶋丹右衛門元貞と銘あり

無名 寛政九年(一七九七)丁十一月十八日と銘がある。

二二五 所在地 大字長谷(倉木山)

部落入口左上に、円墳型の山がある。頂上まで十五米程で、

この頂上に石仏が一基祀られてある。台石(巾〇・四一 高〇・

一八米)

石像高〇・六 巾〇・三米で、文化十二年(一八一五)三月十

四日とあり 薬師地藏像のようである。台石にも文字あるが読

み難い。

二二七 所在地 大字玉目

薬師堂に石仏二体祀りしあり

右側 台石(巾〇・三三 厚〇・一六米)石仏(高〇・五一 巾

〇・二米)

七十六番薬師如来像

左側 台石(巾〇・三三 厚〇・一六米)石仏(高〇・五二 巾

〇・二四米)

七十七番薬師如来と刻みあり

二二六 所在地 大字玉目(井野)

観音堂の中に石仏三体合祀してある。

右側 台石(巾〇・三二 厚〇・一三米)石仏(高〇・五一 巾

〇・二五米)

七十九番十一面観音

中央 台石(巾〇・三二 厚〇・一五米)石仏(高〇・五五 巾

〇・二四米)

七十八番阿弥陀如来

左側 台石(巾〇・二五 厚〇・一七米)石仏(高〇・四五 巾

〇・二〇米)

二二八 所在地 大字玉目(宿ノ谷)

観音堂の中に石仏一体(他四体木造)地藏菩薩像が(高〇・

七四 巾〇・三三米)合祀されてある。

側に石塔ありて(巾〇・二七 高〇・四 厚〇・二四米)天明

二寅天(一七八三)四月吉日、横面に宿の谷村 同行十三人と

銘あり

二二九 所在地 大字玉目(宿ノ谷)

観音堂の入口石段の左側に石仏一体がある。

台石(巾〇・三五 厚〇・一七米)石仏(高〇・五五 巾〇・

二二米)

台石に、七十二番 大日 如来と銘がある。

二三〇 所在地 大字上差尾

部落納骨堂前に石仏一体がある。(巾〇・二 高〇・四四 厚

〇・一八米) 薬師如来像で、亨和三癸天(一八〇三) 正月十一日、横に岩次と銘がある。

二三一 所在地 大字上差尾(山造)

彦黒神社は阿蘇系統の神社であるが、神体の横に石仏(大日如来)が合祀されてある。同神社の下に以前人家ありて家内守護のために祀ってあったのがここに移されたものと思われる。

四国八十八ヶ所の六十番札所になっている。

台石(巾〇・三四 高〇・一五米) 仏像(高〇・五五 巾〇・

二三米) 台石に 六十番 大日如来と銘あり

二三二 所在地 大字大見口(平田)

薬師堂内(公民館併設)に石仏一体(木仏四体)が合祀されてある。大師像で、下台石(巾〇・二三 厚〇・一三米) 上台

石(巾〇・一七 厚〇・一米)の上に、仏像(高〇・二三 巾

〇・一五米)が置かれ、台石に大正十年十一月の刻みあり

二三三 所在地 大字大見口

奈須時男氏宅前に、石仏一体建立されてある。

大日如来像で台石(巾〇・四八 厚〇・〇六米) 仏像(高〇・

五五 巾〇・二二米) 建立年月等詳しきこと不明

二三四 所在地 大字大見口

観音堂の中に諸仏と共に石仏二体が合祀されてある。

四国八十八ヶ所の札所で六十一番 大日如来、六十二番 観世音と刻みありて、二体共大きさは(台石巾〇・三二 高〇・一

五 仏像 巾〇・二六 高〇・五五米) 同型である。

二三五 所在地 大字二津留

観音堂の中に十

一体の諸仏が合祀

されてある、石

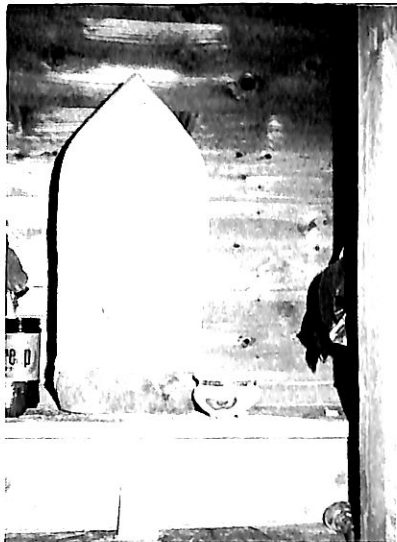
仏一体がある、十

一面観音像で、台

石円形花型で(巾

〇・二二 厚〇・

〇七米) 仏像(巾〇・二二 高〇・四五) 建立年月等無名のため不明



二三六 所在地 大字上差尾(百枝)

観音堂の中に諸仏(木造)と

共に石仏二体が合祀されてある。

一体は四国八十八ヶ所の七十一

番で千手観音と台石(巾〇・三

厚〇・一五米)に刻まれている

が、仏像(巾〇・二一 高〇・

四五米)は大師像のようである。

他の一体は、台石(巾〇・三

厚〇・一六米)仏像(巾〇・二六

他 〇・四七米)は無名の為不明なり



と銘ある。詳しきこと不明

二三七 所在地 大字東竹原(野原)

元小学校先より

林道左入り約五〇

〇米の地点三叉路

杉山の左上に石仏

一体が建立されて

ある。薬師如来像

で、台石に、奉納、



元治二年(一八六五)三月六日、野原村中 世話人 光右衛門

#### 四国八十八ヶ所 廻国

信仰を主とし、傍ら視察見学や、苦修練行の目的を兼ね、現当二世の利益を求めての廻国巡礼が行われたのは、江戸時代が最も盛んであったと云われます。

その由来に遡って見ると、なかなか古いものがあり、この巡礼思想は東亜ばかりでなく西欧にも見られるが、我が国に渡来したのは印度及び中国から入ったものと云われ、而も僧侶に限らず一般の信徒が廻国巡礼を志し、諸国の霊場を巡拝するようになったのは平安朝から鎌倉時代にかけて盛んになってきたと云われる。けれども戦国時代は、兵馬に荒され、路も塞がり、又危険も多かったために衰微したようであるが、この間にも霊場巡礼は相変わらず行われていたという。

江戸幕府が開け、徳川三百年の平和が維持され、往来も自由になり、信仰の熱も高められ、文化を慕う人々は、杖を曳いて遙々と巡礼修業に出かけることかできた人は、中流以上の家庭の人々であったと云われる。ところが中流以下の、ほとんどの人は信仰の熱があり廻国の希望があっても種々の都合で簡単に行けなかったのが実情のようであったと云われます。従って廻国した人が霊場より持帰った土を拝んでいたと云う。

高畑年称神社境内にある碑文によると、井竿五三右衛門道弘なる人、天保十二（一八四一）四国八十八ヶ所を巡拝の時、こと

ごとく霊場の土を持ち帰りて柏在に分けあたえ、又遙か猫子岳麓より数万人によつて石を運び、此の地に宝塔を建立し、又諸仏を柏在八十八ヶ所に安置した。とされてあるが、石仏一番から八十八番まで刻まれて安置された位置が別図のとおり判明している。しかし長い年月により風化されたりして不明となったものがあり、全地区が判っていない。

当時の方々は、この柏在の地を巡礼して崇拜されていたのであろうと思われる。

（別図以外の地に安置されてある仏像を発見された方は御教示下さい）  
（No. 一八三参照）

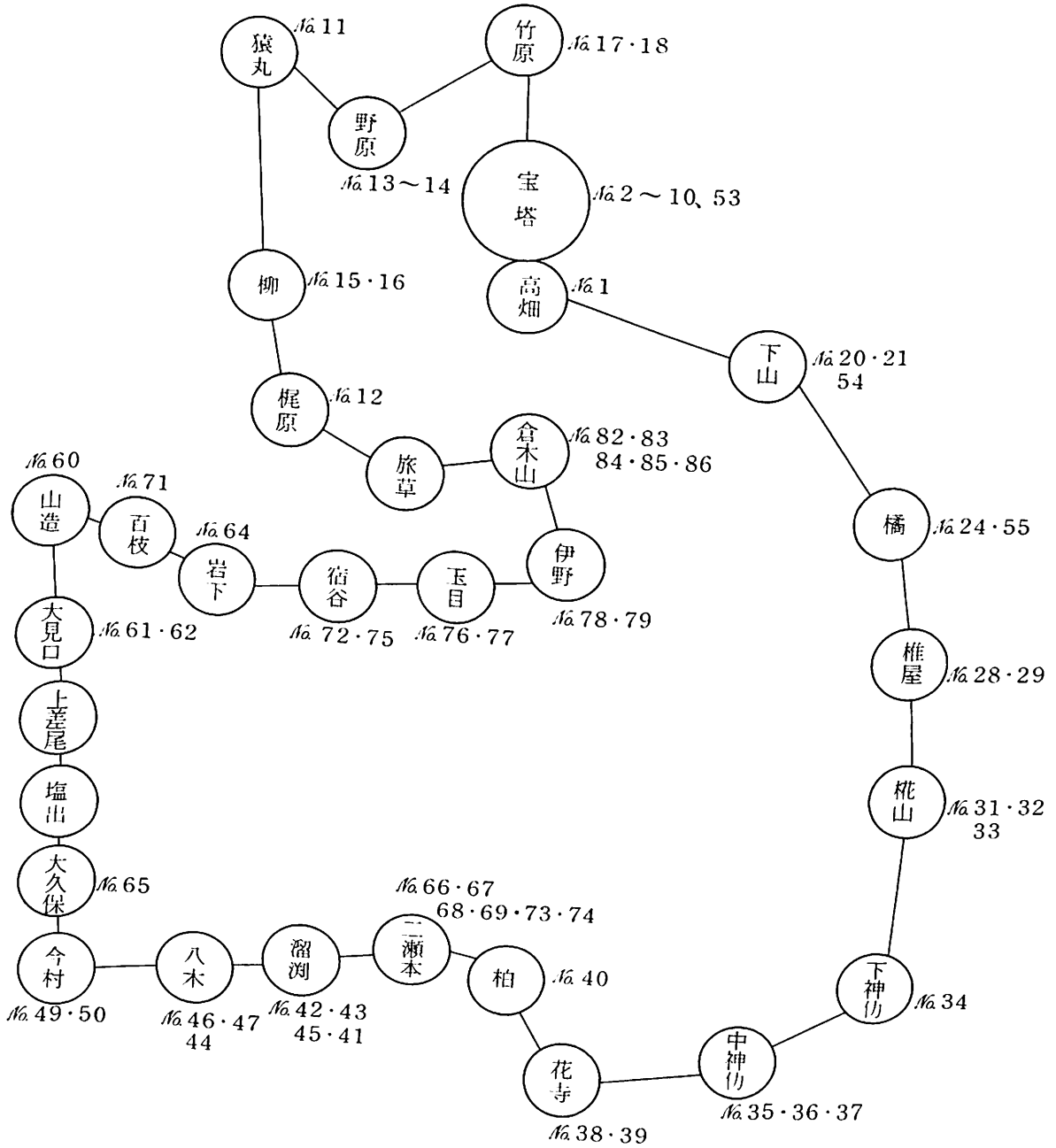
二 柳井原にある四国八十八ヶ所も同じことと思われるが、こゝは安置されてある周囲が比較的狭いので巡回が容易である。

（No. 一七七参照）

## 四国八十八ヶ所祭祀場所 (石仏)

石 番 号	所 在 地	石 番 号	所 在 地	石 番 号	所 在 地	石 番 号	所 在 地
1	高 畑 (堂)	23		45	溜 瀧	67	二瀬本
2	〃 年称社	24	橘	46	八木	68	〃
3	〃	25		47	〃	69	〃
4	〃	26		48		70	
5	〃	27		49	今 村	71	百 枝
6	〃	28	椎 屋	50	〃	72	宿の谷
7	〃	29	〃	51		73	二瀬本
8	〃	30	〃	52		74	〃
9	〃	31	椀 山	53	高 畑	75	宿の谷
10	〃	32	〃	54	下 山	76	玉 目
11	猿 丸	33	〃	55	橘	77	〃
12	梶 原	34	下神仵	56		78	伊 野
13	野 原	35	中神仵	57		79	〃
14	〃	36	〃	58		80	
15	柳	37	〃	59		81	
16	〃	38	花 寺	60	山 造	82	倉木山
17	竹 原	39	〃	61	大見口	83	〃
18	〃	40	柏	62	〃	84	〃
19		41	溜 瀧	63		85	〃 ?
20	下 山	42	〃	64	岩 下	86	〃 ?
21	〃	43	〃	65	大久保	87	
22		44	八 木	66	二瀬本	88	

四国八十八ヶ所祭祀場所 (石仏)





## 二 六地像 (石幢)

石幢は中国の遼の時代に盛行したものが伝わり、鎌倉時代以降、供養塔として建立された。六面を原則とするが、八面、四面もあり、単制と重制の二種がある。龕部に六体の地藏を刻し、俗に六地藏と呼ばれているものも石幢の一種である。

六地藏は一切の衆生が善悪の業因によって「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人間」「天上」の六つの迷界にゆくとされている。六道に立って「ひとびと」の苦しみを救う六仏を六地藏と称し、昔は一日に六回(朝、晝、夕方、初夜、中夜、奥夜)回向したとも云われている。

石幢の外、板碑に六体を彫ったものや一体型の六地藏の三種に大別されるが、馬見原に安置されているのが、一体型である。

### 二三八 所在地 大字馬見原

市街地中央部左側に、火伏地藏尊が祀られている。その右前に一体型六地藏像が合祀されている。諸説あるも何故か六体共に頭がなくなっている。六体共、台石に享保三(一、七七八)

成層、

奉造立 小陳弥吉 と銘あり

基礎(高〇・四二 中〇・三三米) 台石(高〇・一八 中〇・

四二米) 像(高〇・五八 中〇・二二米)

### 火伏地藏尊像由来記

此の火伏地藏尊像は、始め室町時代永禄年間迄先きの順正寺通寺の号を拝名する前の禅寺観音堂(寺) 禅宗の寺に何の日か詳かならざるも合祀ありしを、当町の力のある商人、藤原之越後屋八田越後妻女仁寿様人が、諸民の日常の生活を安からしめんが為に、先の観音堂に観音様と合祀ありしお……時は永禄六亥(一五六三)年、此の地藏尊を現在の新町の通りに遷仏したものなり。近世時火災多かりしに意を心して願いて火伏の守りに町内の民の信をあつめたものと解せられ今日に至りあり。



(八田家系図依)

### 二三九 所在地 大字二瀬本(町)

西角屋旅館横にあり、(高さ三、一〇米)四面型の地藏尊が建立されている。第一集に登載されているので追記として述べる。

「肥後路の石仏」

と云う文献によれば中世以来庶民に親しまれているのが、地藏菩薩である。通称「お地藏さん」の愛称をも



って親われてきている。二瀬本地蔵尊は、当初大野原に建立されていたが、何時の頃か詳でないが、現在地に祀られ、この地、字町のことを通称六地藏とまで云われ、六地藏に買いものに行くとか、六地藏に何時集合するようにとか、町名が六地藏の名称で通用するまで発展をし、六地藏が大衆から尊敬を乗り越えて愛称されていた。又他村から奉公に来ていた子守の人等、又老人の方は「ムシロ」を持ち、子供や孫をつれて、ひねもす地藏尊を中心に遊びたわむれ、遊び飽いては石柱に傷つけ、又は穴を掘り、幾多の傷跡も長年の風雪に埋もり、手垢、手遊びになめらかになり、現状を呈している。

坂の上の、佐藤利雄さん宅は、古くから上屋敷と称し、地藏尊の守護役をつとめた家柄で、此の伝統を今も守り継がれ、毎年旧暦七月七日には、酒、野菜等を供え、地藏祭りをされ、又町部落の方々は、七月二十四日には全員地藏の周辺を清掃され、

酒肴類を供えて地藏祭りを盛大に行っている。

建立は、室町時代（一四〇〇〜一五〇〇）の作と云われる。

二四〇 所在地 大字下山（前畑）

村中の道路左上の杉竹山の中に四面型の六地藏が建立されている。塔高約二・一米あり中台の上の一面に仏像の絵が二体ずつ刻まれている。（八体）塔身の一面に梵字があり、大永六年（一五二六）とあり四六〇年前のもので相当古く塔身の一部が壊れているが一面に次の文字の銘がある。



亥西

物□妙

骸一花

塔身の一部欠けて不明

菩提妙□壽位 一妙禪尼

藤原朝日□三郎善根

菩□棲丁昌壽位

逆修七分壽位

善根妙分□位

逆修七分壽位

奉謹造主地藏堂尊容

六躰巖々明

日本国西海道肥後阿ソ

郡南郷庄□□ 霜山村

居住奉

□

□  
□